

NPO 法人アートフル・アクション作成

多摩の未来の地勢図 cleaving art meeting  
プロジェクト「ゆずりはをたずねてみる ― 社会的養護に関わる人たちとともに」

力を抜くための連続ワークショップ

たずねる 2022

実施記録

# 概要

## ■背景

本プロジェクト「ゆずりはをたずねてみる ― 社会的養護に関わる人たちとともに」は、2021年度にスタートした。

2021年度は、社会福祉法人二葉むさしが丘学園のグループホームのスタッフの方々を中心に、音楽やダンス、心とからだをほぐすための小さなエクササイズをとおして、肩から力を抜き、隣あう人々と緩やかに出会い、日々を重ねる時間と場をみなでつくった。

★2021年度の記録はこちら

<https://cleavingartmeeting.com/yuzuriha/>

この2021年度の活動の中で、参加者から「他の施設で働く同業の人と話したい」という希望を聞くことが多くあった。

それを受けて、2022年度は、2021年度のワークショップの内容を引き継ぎつつ、少し発展させ、複数の施設の参加者に向けて開催することとした。

## ■目的

ダンスや音楽、造形活動により、レジリエンス(復元力、回復力、弾性)を高めることを通じ、(施設)職員の心身の健康や安心、子どもとの継続的な関係づくりのサポートをする。複数の児童養護施設より参加者を募集し、施設を越えた交流の場をつくる。

## ■内容

ダンスや音楽、造形活動をとおし、ゆっくりとリラックスし、安心して緩やかに心身を解放し、何気ない気づきを語り合い、分かち合い、みんなで経験を共有する時間を過ごす。

## ■講師

花崎摂(演劇)、松村拓海(音楽)、はらだまほ(おどり)

<講師プロフィール>

花崎摂

シアター・プラクティショナー、野口体操講師。ロンドン大学ゴールドスミス校芸術学修士。専門は、演劇を人々の生活の中で活かし演劇の可能性を広げる応用演劇

松村拓海

ミュージシャン フルート奏者。音楽理論、即興、楽譜読み書き、レッスン生常時受付中。

<http://takumijazzflute.tumblr.com>

共演参加 俺はこんなもんじゃない / 菅原慎一 / nariiki / 恥御殿 / 黒岡オーケストラ / ソボブキ / Kenichiro Nishihara / 菊地雅晃 など

はらだまほ

振付家/パフォーマー 言語と身体の関係性を中心に「おどり」について多面的に思考し、動作から「おどり」になる瞬間や身体が踊り出す瞬間にこだわって作品を紡ぐ。世代や対象を問わず、パフォーマンス・振付・ワークショップと多様な活動を展開している。2015年より乳幼児のための舞台芸術に積極的に取り組んでおり、ダリア・アチン・セランダーやアリツィア・ルブザックなどをはじめ海外の様々な演出家の作品にパフォーマーとして出演。立教大学現代心理学部映像身体学科卒業。

## ■参加対象

児童養護施設に関わる人。（所属、役職は問わない）。

\*多摩地域にある下記3つの施設に声をかけ、参加者を募った。

- ・子供の家（清瀬市） <https://www.kiyose-kodomonoie.com>
- ・二葉むさしが丘学園（小平市） [https://www.futaba-yuka.or.jp/int\\_musashi/](https://www.futaba-yuka.or.jp/int_musashi/)
- ・東京サレジオ学園（小平市） <https://salesio.or.jp>

## ■開催日時、会場

開催日時：2022年8月26日(金) 16:00～18:00

9月26日(月) 16:00～18:00

会場：子供の家 ホール（東京都清瀬市松山 3-12-17）

\*2022年11月28日（月）、2023年2月14日（火）も開催を予定していたが、それぞれ下記の理由で開催中止した。

・2022年11月28日（月）：二葉むさしが丘学園より、施設で新型コロナウイルス陽性者が発生した関係で参加が難しくなったとの連絡をいただく。また、子供の家職員の皆さんも参加が難しいとのことで、開催中止とした。

・2023年2月14日（火）：子供を家のホールの使用可能日ということでこの日にしたが、子供の家職員の皆さんはホーム対応などがあり参加が難しい。二葉むさしが丘学園の職員さんの一人は園内研修のため参加不可、お一人は参加希望とのことだったが、プログラム上、二人以上参加がないと実施が難しいと判断し開催中止とした。（この回はチラシ作成ナシ）

\*チラシは各施設への掲示をお願いするために作成。プログラムの特性をふまえ、広く配布は行わないこととした。



ダンスや音楽、造形活動をとおり、ゆっくりとリラックスし、安心して緩やかに心身を解放し、何気ない気づきを語り合い、分かち合い、みんなで経験を共有する時間を過ごしませんか？

ダンスや音楽、造形活動には、緩やかに気持ちを開き、自分の中に潜在している気がかりや心の疲労をほぐす働きがあります。また、多様な年齢層の方や他施設の方との交流を通じ、講習や研修とは異なるちょっとしたノウハウ（何気ないけれどとても大切な）や、座学では得られない、その人独自の気づきの深化は、身体を動かしたり、造形や音楽など、日常と離れた動きの中で生まれ出ることも多くあります。

ダンスや音楽、造形活動により、レジリエンス（復元力、回復力、弾性）を高めることを通じ、職員さんの心身の健康や安心、子どもとの継続的な関係づくりのお手伝いします。

力を抜くための連続ワークショップ

## たずねる2022

日時：8月26日(金)、9月26日(月)

各回16:00～18:00

※本企画は、2022年8月から2023年3月まで月1～2回程度開催する連続ワークショップです。今回は、8月、9月のワークショップのお知らせです。単発参加も可能です。

場所：清瀬市、小平市、他

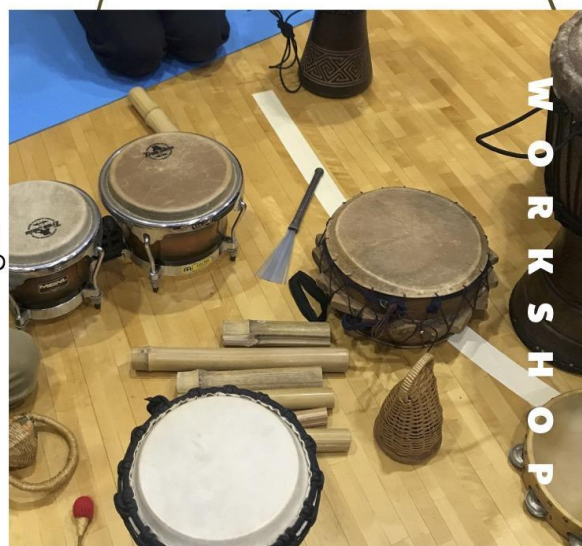
詳細は参加される方に直接ご連絡いたします。

対象：児童養護施設に関わる人。

所属、役職は問いません。

費用：無料

講師：花崎摂（演劇）、松村拓海（音楽）、はらだまほ（おどり）



昨年の様子や講師について  
詳しく知りたい方はこちらへどうぞ！→



### ◆お申し込み方法◆

右のQRコードより、必要事項を記入の上  
グーグルフォームにてお申し込みください。

材料の準備などの関係から、  
前日までに申し込みください。



主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、特定非営利活動法人アートフル・アクション

このワークショップについて：  
本事業は、東京都、東京都歴史文化財団による、多摩地域を対象としたプロジェクト（多摩の未来の地勢図 cleaving art meeting）の一環として、複数年を視野に、NPO法人アートフル・アクションが実施するものです。

NPO法人アートフル・アクションについて：  
企画展、イベント、講演、ライブなど、様々なアート活動を行っている団体です。市民、自治体、学校、他のNPO、企業などと連携しながら、「地域におけるアート」の可能性を追求しています。本年度は、年間のテーマを「尊厳と表現（アート）」とし、複数の事業を多摩地域にて実施します。  
<https://artfullaction.net/>

### ◆お問い合わせ◆

〒184-0004 小金井市本町6-5-3 シャトー小金井2F  
特定非営利活動法人アートフル・アクション  
<https://artfullaction.net/>  
<https://cleavingartmeeting.com/>  
[mail@artfullaction.net](mailto:mail@artfullaction.net)





ダンスや音楽、造形活動をとおり、ゆっくりとリラックスし、安心して緩やかに心身を解放し、何気ない気づきを語り合い、分かち合い、みんなで経験を共有する時間を過ごしませんか？

ダンスや音楽、造形活動には、緩やかに気持ちを開き、自分の中に潜在している気がかりや心の疲労をほぐす働きがあります。また、多様な年齢層の方や他施設の方との交流を通じ、講習や研修とは異なるちょっとしたノウハウ（何気ないけれどとても大切な）や、座学では得られない、その人独自の気づきの深化は、身体を動かしたり、造形や音楽など、日常と離れた動きの中で生まれ出ることも多くあります。

ダンスや音楽、造形活動により、レジリエンス（復元力、回復力、弾性）を高めることを通じ、職員さんの心身の健康や安心、子どもとの継続的な関係づくりのお手伝いします。

力を抜くための連続ワークショップ

# たずねる2022

日時：8月26日(金)、9月26日(月)

各回16:00～18:00

※本企画は、2022年8月から2023年3月まで月1～2回程度開催する連続ワークショップです。今回は、8月、9月のワークショップのお知らせです。単発参加も可能です。

場所：清瀬市、小平市、他

詳細は参加される方に直接ご連絡いたします。

対象：児童養護施設に関わる人。

所属、役職は問いません。

費用：無料

講師：花崎攝（演劇）、松村拓海（音楽）、はらだまほ（おどり）



昨年の様子や講師について  
詳しく知りたい方はこちらへどうぞ！→



## ◆お申し込み方法◆

右のQRコードより、必要事項を記入の上  
グーグルフォームにてお申し込みください。

材料の準備などの関係から、  
前日までにお申し込みください。



主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、特定非営利活動法人アートフル・アクション

このワークショップについて：  
本事業は、東京都、東京都歴史文化財団による、多摩地域を対象としたプロジェクト（多摩の未来の地勢図 cleaving art meeting）の一環として、複数年を視野に、NPO法人アートフル・アクションが実施するものです。

NPO法人アートフル・アクションについて：  
企画展、イベント、講演、ライブなど、様々なアート活動を行っている団体です。市民、自治体、学校、他のNPO、企業などと連携しながら、「地域におけるアート」の可能性を追求しています。本年度は、年間のテーマを「尊厳と表現（アート）」とし、複数の事業を多摩地域にて実施します。<https://artfullaction.net/>

## ◆お問い合わせ◆

〒184-0004小金井市本町6-5-3シャトー小金井2F  
特定非営利活動法人アートフル・アクション  
<https://artfullaction.net/>  
<https://cleavingartmeeting.com/>  
[mail@artfullaction.net](mailto:mail@artfullaction.net)





ダンスや音楽、造形活動をとおり、ゆっくりとリラックスし、安心して緩やかに心身を解放し、何気ない気づきを語り合い、分かち合い、みんなで経験を共有する時間を過ごしませんか？

ダンスや音楽、造形活動には、緩やかに気持ちを開き、自分の中に潜在している気がかりや心の疲労をほぐす働きがあります。また、多様な年齢層の方や他施設の方との交流を通じ、講習や研修とは異なるちょっとしたノウハウ（何気ないけれどとても大切な）や、座学では得られない、その人独自の気づきの深化は、身体を動かしたり、造形や音楽など、日常と離れた動きの中で生まれ出ることも多くあります。

ダンスや音楽、造形活動により、レジリエンス（復元力、回復力、弾性）を高めることを通じ、職員さんの心身の健康や安心、子どもとの継続的な関係づくりのお手伝いします。

力を抜くための連続ワークショップ

## たずねる2022

日時：11月28日(月)

各回16:00～18:00

※本企画は、2022年8月から2023年3月まで月1～2回程度開催する連続ワークショップです。今回は、11月のワークショップのお知らせです。単発参加も可能です。

場所：清瀬市、小平市、他

詳細は参加される方に直接ご連絡いたします。

対象：児童養護施設に関わる人。

所属、役職は問いません。

費用：無料

講師：花崎攝（演劇）、松村拓海（音楽）、はらだまほ（おどり）



昨年の様子や講師について  
詳しく知りたい方はこちらへどうぞ！→



### ◆お申し込み方法◆

右のQRコードより、必要事項を記入の上  
グーグルフォームにてお申し込みください。

材料の準備などの関係から、  
前日までにお申し込みください。



主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、特定非営利活動法人アートフル・アクション

このワークショップについて：  
本事業は、東京都、東京都歴史文化財団による、多摩地域を対象としたプロジェクト（多摩の未来の地勢図 cleaving art meeting）の一環として、複数年を視野に、NPO法人アートフル・アクションが実施するものです。

NPO法人アートフル・アクションについて：  
企画展、イベント、講演、ライブなど、様々なアート活動を行っている団体です。市民、自治体、学校、他のNPO、企業などと連携しながら、「地域におけるアート」の可能性を追求しています。本年度は、年間のテーマを「尊厳と表現（アート）」とし、複数の事業を多摩地域にて実施します。<https://artfullaction.net/>

### ◆お問い合わせ◆

〒184-0004小金井市本町6-5-3シャトー小金井2F  
特定非営利活動法人アートフル・アクション  
<https://artfullaction.net/>  
<https://cleavingartmeeting.com/>  
[mail@artfullaction.net](mailto:mail@artfullaction.net)



# 開催レポート

日時：2022年8月26日（金）16:00～18:00

場所：児童養護施設子供の家

参加者：4名（社会福祉法人二葉むさしが丘学園スタッフ3名、児童養護施設子供の家スタッフ1名）

講師：花崎攝（シアター・プラクティショナー、野口体操講師）、松村拓海（ミュージシャン）、はらだまほ（振付家、パフォーマー）

スタッフ：NPO法人アートフル・アクションスタッフ1名

ワークショップの流れ（途中休憩を挟みます）：

①16:00～16:10 自己紹介、このプログラムの説明

②16:10～16:30 身体をほぐす運動（はらだまほ）

③16:30～17:00 誰でもピカソ+自己紹介のような他己紹介（花崎攝）

④17:00～17:20 体の部位を使って音・リズムを奏でる（松村拓海）

⑤17:20～17:40 自分の体の音を使いながら相手の音の隙をつくゲーム（松村拓海）

⑥17:40～17:50 参加者それぞれの「最近ドキッとしたこと」をみんなで再現してみよう（花崎攝）

⑦17:50～18:00 振り返り、今日の感想

参加者からの感想：

- ・いつも働いている場所から離れ、参加できたのはよかった。勤務場所だと、他のことが気にかかってなかなか集中できない。
- ・他の人の新しい面を知ることができた。
- ・グループホームだと他の人との接点がなかなかないので可能な日は参加したい。夜勤がない日など。
- ・このことを告知するにあたってどうしたらいいか。わかりやすくシェアできたら。

ワークショップの様子



身体をほぐす運動



誰でもピカソ+自己紹介のような他己紹介



自分の体の音を使いながら相手の音の隙をつくゲーム





参加者それぞれの「最近ドキッとしたこと」をみんなで再現してみよう



振り返り、今日の感想

日時：2022年9月26日（金）16:00～18:00

場所：児童養護施設子供の家

参加者：5名（社会福祉法人二葉むさしが丘学園スタッフ3名、児童養護施設子供の家スタッフ2名）

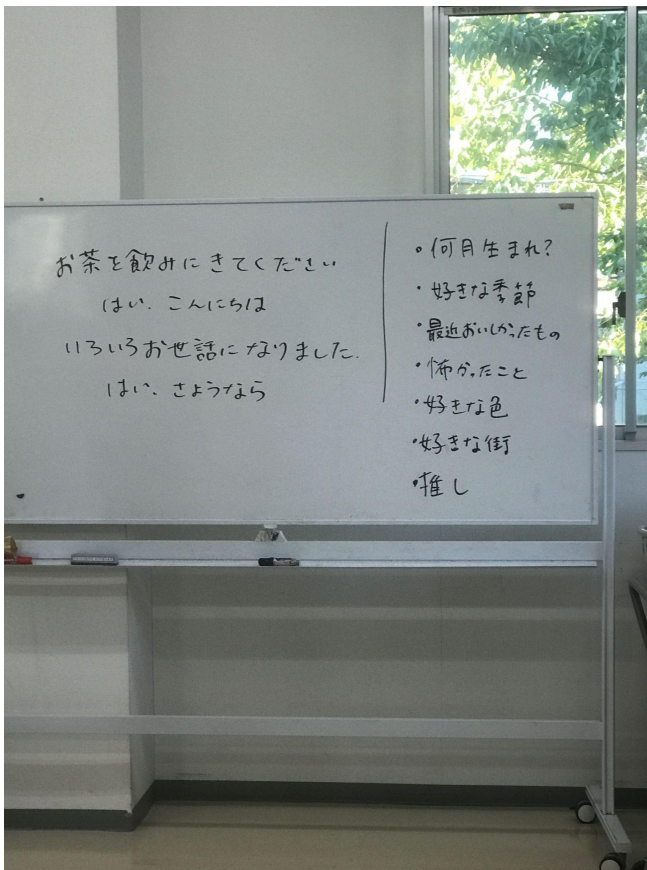
講師：花崎攝（シアター・プラクティショナー、野口体操講師）、松村拓海（ミュージシャン）、はらだまほ（振付家、パフォーマー）

スタッフ：NPO法人アートフル・アクションスタッフ1名

ワークショップの流れ（途中休憩を挟みます）：

- ①16:00～16:10 自己紹介、呼んでほしい名前を自分につける
- ②16:10～16:30 童謡「お茶を飲みにきてください」を用いた自己紹介  
（生まれ月、好きな季節、最近面白かったこと、怖かったこと、好きな色、街、推し）
- ③16:30～17:00 彫刻家と彫刻になってみる（警官、医者、怒り、憧れを体で表現する）
- ④17:00～17:20 グループに分かれて姿形を模してみる（他者の観察）
- ⑤17:20～17:40 出来事を体を使ってグループで表現してみる
- ⑥17:45～18:00 振り返り、今日の感想の共有

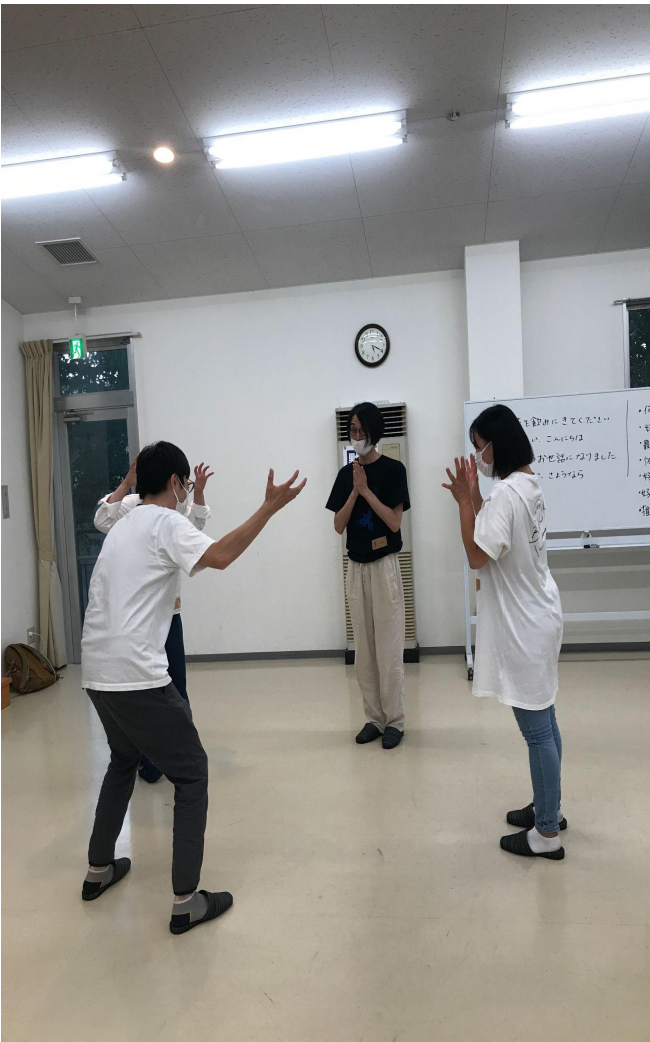
ワークショップの様子



「お茶を飲みに来てください・・・」童謡を使って他者を知る



姿を模す。他の人を丁寧に観察する。



感情を体で表現してみる



出来事をグループで再現してみる



振り返りの会

## 参加者からの感想：

- ・花崎さんから
  - ・今日の活動のねらいの説明
  - ・参加している人の生活の一部を演劇的に表現して交換する
  - ・聞き合う、一緒に考える
  
- ・参加者から
  - ・最近の自分のことを考えた。こういうことがないと考えない。思い出した。
  - ・ギャップも見えた神ちゃんのジャニーズ。知らなかった一面を知ることができた。
  - ・体を全部使って表現することはなかった。難しいこともある。感情を言葉で表現するのが難しい。
  - ・みんなで動く会話が生まれる。和やかで楽しい。コンテンポラリー、感情を表現する。
  - ・体を使って何かをすることには縁がないけど興味があって。
  - ・雑誌「精神看護」について。
    - ・表現の中で壊れること、安全な方法で壊れること、思いっきり壊れる、安全に。
    - ・倉田めばさんの記事あり。
  - ・自分一人だと大変。
  - ・人にやってもらうこと、人との関与の中でやるのが良い。
  - ・それぞれの好きな何かを聞いたのは良い。手術室、すぐわかった。
  - ・楽しい。
  - ・普段表現しようとすると言い方や方法を考えてしまう。体で表現するのは単純に楽しい。
  - ・自分が表現することを、相手に表現してもらうのは優しい。信頼感がある。
  - ・子供の頃はこんな感じ？あんな感じ？とついやっちゃってみる。大人になるとできなくなる。
  - ・悲しい、怒り、自分はこうだなと思うのと全く違うのは面白い。  
みんな違うのは当たり前だけどそれを前提にするのは良い。
  - ・内側に向いちゃう。不調な時ほど出なくなっちゃう。
  - ・コロナになってからブレーキを踏む。
  - ・お茶を飲みに来てください、の時に皆さんの話が終わらないのがすごいなと思った。
  - ・こういう機会が継続できるといいな。
  
- ・以下、花崎さんから
  - ・みなさんがいろいろお話していてすごいなと思った。
  - ・シアターゲームは一見ただ遊んでいるだけのようだが、ある実践者は、人生の休暇のようなものだと言っている。日常から離れて、普段ではやらないこと、例えばここで何と呼ばれたいか考えて、仕事場では呼ばれない名前をつけて呼び合ったり、ある出来事を演劇的に表現して、見直したりしてみる。
  - ・アーティストで依存症のサバイバーである倉田めばさんは、依存症の人は、自助グループなど場所があって、困っていることをしゃべることができるようになって、アルコールや薬から離れていられる。自分が元気で強い時はやっていけるが、大変な時におしゃべりする場や時間があるといいと言っている。これは依存症の人に限ったことではない。
  - ・コロナになってから話たり、一緒に何かをする機会が減っていた。こういう機会があると、息がつける感じがして楽しかった。

# 振り返り

下記の実施を通し、2022年度の活動の振り返りをおこなった。

Step1,施設インタビュー

1. 二葉むさしが丘学園
2. 子供の家

Step2,講師振り返り座談会

# 施設インタビュー

## 1、二葉むさしが丘学園

2023.2.17（金）10時半～11時半@二葉むさしが丘学園

インタビュイー：

- ・神川あゆみさん
- ・竹村雅裕さん（自立支援・地域連携コーディネーター）

インタビュアー：

- ・井尻貴子（NPO 法人アートフル・アクション スタッフ）
  - ・宮下美穂（NPO 法人アートフル・アクション 事務局長）
- 

### 1、参加してみてどうだったか

- ・神川さん、竹村さん共に 2022 年度は 8 月、9 月の 2 回参加。

・内容自体はあまりやったことがないものだったので、毎回楽しく参加させてもらった。「人間彫刻」が印象に残っている。面白いな、こういうのがあるんだなと知った。体を動かすことにも特に抵抗なかった。（神川）

・自分は今、小学生 3 人を見ているが、その子たちとも一緒にできそうな内容だと思った。なかなか時間が取れなくてまだできていないが、こうした体験も子どもたちに還元できればと思っている。引き出しの幅が広げられた気がする。（神川）

- ・内容には関係ないが、冬の体育館は寒かった。（神川）

・寮の職員は、どうしても他の施設との関わりがなく、閉鎖的になりがち。他の施設で同じ仕事をしている方との関わりが持てるのはありがたい。

→他の施設で同じ仕事をしている方・・・この近隣の施設（地域性もあるので）。児童養護施設。子どもと関わる仕事とすると広がりすぎる気がする。学生時代の友人などでも、保育園に就職している人が多く、そことは違いを感じている。（神川）

- ・参加した人の満足度は高かった。（竹村）

・コロナでコミュニケーションがない分、ワークショップに参加することで、「この人こんなことやってたんだ」と同僚の、いつもとは違う面に触れることができた。（竹村）

### 2、今後、施設の中に入れていくためにどうしていくか

・年間の開催スケジュールが決まっている（見通しが立っている）方が参加しやすい。時間は、16 時～18 時は、自分は参加しやすかった。勤務明けにちょうど参加できる。（神川）

・個人的には、（強制ではなく）参加する意欲のある人が参加する方が、絶対楽しいものになるように思っている。（神川）

・参加した人からは、また参加したいという声を聞いているが、どうしても仕事との兼ね合いで、なかなか参加しにくい。

→仕事の量が多いということもあるが、急遽、子どもの対応が必要になることも度々ある。参加しようと思っていたけど、病院に行かないといけなくなった、とか。このワークショップに限らず、そういうことはどうしてもある。（神川）

・子どもとやる、子どもと支援者一緒にやる、支援者だけでやるといった枠組みもあるが、どうか。

→子どもとやるワークショップは、既にたくさんある（芸術家と子どもたちなど）。施設でやるとなると、新規の枠組みで何かやることは難しい（既にたくさんあるので）。もしやるなら、既存の枠組みに+aというのが一番やりやすいと思う。（竹村）

・施設間同士の横串としては、児童部会というのがある。また、社会的養護施設職員の職員定着支援などに取り組んでいる NPO 法人チャイボラが、結構な頻度で学習会をやっていて、オンラインということもあり、けっこう多くの施設が参加している。そういう既存のものの中に、1つ入れて、そこから広げていくとかの方が、イチから作っていくよりはやりやすいのではないか。

→段取りをどうするといいかは課題。各施設の施設長、部会の長の施設長などが力を持っている。

→こうした、オフィシャルな枠の方が、広報はしやすい。ただ、オフィシャルな枠組みにすることでの動きにくさもある。どちらがいいか判断するのは難しい。

→活動内容や位置付けを踏まえると、小さくてもいいから、定期的にやっているものが口コミで広がっていく方が健康的だなとも思う。

→最初は、活動に賛同してくれる人がコアメンバー的にいて、そこから広げていくのがいいように思う。（竹村）

児童部会 <https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/jidou.html>

NPO 法人 チャイボラ <https://chaibora.org>

### 3、実施の目的、枠組み（どういうものがあると、職員の皆さんにとっては助けになるか）

・定期的に常にやっていて、「まあ今回はいけなくても次があるか」くらいの緩い感じが参加しやすさにつながるように思う。開催スケジュールが決まっている方が参加しやすい。

→コロナ前に、「支援者バー」というのをやりたいと思っていた。他施設の人と交流する機会を作りたい。長く仕事をしてきた中で、他施設の人と話すというのは結構重要だと感じている。おしゃべりもするし、普段やったことがないこともするし、みたいな。交流とリフレッシュ、新しい体験と。それが定期的にあるといいように思う。例えば、毎月第3木曜日、とか。（竹村）

・今回のようなワークショップはリフレッシュする場にはなるし、そういうものは必要だと思う。おしゃべりできるのはいいなと思うし、それプラス、「一緒に何かする」というのがいい。さらに、人によっては、「おしゃべりだけ」とか「体動かすだけ」とかの選択肢があると参加しやすくなるように思う。（神川）

・コロナ禍でなかったら、ワークショップ後の交流（お茶やご飯など）も本当はできたらいいなと思う。（竹村）



・どんな内容であっても「初心者でもできます」みたいなものだと嬉しい。  
→「ストレッチ」、「からだほぐし」など・・・リフレッシュ感もあっていいと思う。(神川)

・仕事をしている中では、しんどいことも多い。それでも続けていく、というためには、プライベートな時間を充実させることは大事だと思う。外に出る、何か新しいことを始める、人と話すことなどを大事にしている。(神川)

・二葉むさしが丘学園の寮では、基本的に1人勤務なので、大人と話す機会自体があまりなかったりする(引き継ぎの時だけだったりする)。その辺りで孤独を感じやすい側面はあるように思う。(神川)

・職員のメンタルケア、セルフケアの研修などはあまりない。また、研修もコロナ禍でほぼオンラインになっているので、関わりの希薄さをどうしても感じてしまう。(神川)

・“セルフケア“という言葉は、あまり馴染みがなく、イメージがわからない。セラピー的なものを連想する人もいるかも。(竹村、神川)

・「コミュニケーション」「交流」は、今、施設間の会議などでもキーワードになっている。  
→世代間でのコミュニケーション、価値観の違いがハラスメントにつながってしまったりといったことが課題として挙げられたりもする。表面上のコミュニケーションしかしていないから問題化してしまう部分もある(関係性ができていたら、指摘して解決できそうなことも、指摘できなかったりする)。  
(神川)

・仕事上で、どういった方針で子どもと関わるのか、同僚としっかり話し合うことが必要な場面はある。そこまでの話し合いができるまでの関係性を作ることが重要だと感じている。でもそのきっかけが、新任職員は持てないことも多い。(神川)

―――  
\*二葉むさしが丘学園は、勤務時間外での参加としていた。

\*施設から会場まで、一緒に移動する時間なども、普段とは違う過ごし方ができる時間として良かったとのことだった(ワークショップで、普段とは違う面が見えた後だったので、そこから話ができたとのこと)。

―――  
参考：

にじいろのなかまたち 2019-2020 ～児童養護施設の交流ワークショップ～ vol.1 座談会「2020年度を振り返って」

(前編) [https://www.children-art.net/post\\_column/post\\_column-5827/](https://www.children-art.net/post_column/post_column-5827/)

(後編) [https://www.children-art.net/post\\_column/post\\_column-5838/](https://www.children-art.net/post_column/post_column-5838/)

【二葉むさしが丘学園】職員インタビュー

(前編) <https://chabonavi.jp/topic/23>

(後編) <https://chabonavi.jp/topic/24>

## 2、子供の家

2023.2.28（火）14時～15時@子供の家

インタビュイー：

- ・角能秀美さん（子供の家 自立支援コーディネーター）
- ・山本麻衣子さん（子供の家 心理職）

インタビュアー：

- ・井尻貴子（NPO 法人アートフル・アクション スタッフ）
  - ・宮下美穂（NPO 法人アートフル・アクション 事務局長）
- 

### 1、参加してみてどうだったか

- ・角能さんは8月、山本さんは9月に参加。

・体を動かすのは好きな方なので、他の施設の職員さんと一緒に体動かしながらリラックスして過ごすのは楽しかった。一番印象に残ったのは、「似顔絵を描く」ワーク。相手の顔を見ながら、下を見ないで描くっていうのは、いつも使っている五感とはちょっと違う、新鮮な感覚があって面白かった。（角能）

・わらべうたを使ったワークや、「人間彫刻」が印象に残っている。一つのテーマに沿って、そのテーマ自体もみんなで話しながら、作るみたい。チームワークが必要なものを体を使いながらやるっていうのが結構面白くて、一体感も生まれたように感じられた。（山本）

- ・チラシを見て、癒しの時間になりそうだと思って参加した。その点は期待通りだった（山本）

### 2、今後、施設の中に入れていくためにどうしていくか

・参加のしやすさを上げるためには、任意だとどうしても難しい。全体の研修が年間を通して、1～2ヶ月に1回（年間7、8回程度）ある。その中に組み込まれて入れば、職員も気兼ねなく参加できる。タイムカードを導入していて、超過勤務を減らそうとしている中で、勤務時間内に2時間の参加時間を捻出するのは難しい。（角能）

・研修は職員の中の研修担当チームが企画している。2/28時点で、2023年度の内容はほぼ固まっている。座学中心で、講師の人を呼んでやることが多い。子供の支援のやり方、職員のスキルアップが目的。現在は、オンライン/会場同時開催している。全職員約90名が参加対象で、その時に参加できる人が参加する。その中に年1回くらい、体を動かすような内容があってもいいかなと思う。（角能）

- ・勤務時間外に時間を割いてもらわないといけない状況では、参加してもらうのは難しい。（角能）

・時間的な余裕のなさはどうしてもある。勤務時間中、1時間の休憩時間をとることに取り組んでいるような状況。（角能）

## 2、実施の目的、枠組み（どういうものがあると、職員の皆さんにとっては助けになるか）

・今回参加した中では、ケアになるというのもあったが、チームで働いていてもコロナ禍もあり、みんなが集まって一体感を持って何かをやる時間がなかなか取れないでいたので、人間彫刻などはそうした時間となって良かったと感じている。そういう時間をとるような研修があっても良いと個人的には思う（山本）

・一方で、あまり目的的になりすぎるのも良くないように思う。こうしたワークショップでは「参加して楽しかった」ということを一番大事にできると良いように思う。（山本）

・どんなプログラムがあると職員のケアにつながるかは難しい。人それぞれの部分もあるので一概には言えない。ただ、余暇的な時間はあるといいなと思う。複数のプログラムがあって、好きなものを選ぶことができるのが理想的。（山本、角能）

・息を抜いて参加できるものがよい。（角能）

・職員が増えるに従い、お互いのことをあまりよく知らない状況にはなっている。その中で、仕事とは関係のない面を知るとというのがよく働く側面もあると思う。（角能）

・ちょっと話ができる関係性が、職場にもあるといいと思う。コロナ禍、オンラインの会議や研修などが増えていることで、それが減っている感じはする。ため息をつきあう関係がなくなっている。（角能）

・子供の家では、現在は、基本的に2人体制での勤務になっている（大体、1人体制のところが多い）。職員が増えたこと、制度的に整ってきたことから可能になった。とはいえ、職員人手不足の施設が多いので、子供の家はその点では特殊だと思う。（角能）

―――

\* 子供の家は、勤務時間内に参加可としていた。

\* 参加にあたっては、内容よりも、どういう位置付けで開催するかがハードルになりえる。

―――

参考：

アートがつなぐ育ちの場 ～児童養護施設、こども食堂、ファミリーホームの交流ワークショップ～  
(2021/03/14 公開)

vol.1 [https://www.children-art.net/post\\_column/post\\_column-5782/](https://www.children-art.net/post_column/post_column-5782/)

vol.2 [https://www.children-art.net/post\\_column/post\\_column-5796/](https://www.children-art.net/post_column/post_column-5796/)

# 講師振り返り

2023.3.3（金）12時半～14時@オンライン（zoom）

参加者：

- ・花崎攝さん（演劇）
- ・松村拓海さん（音楽）
- ・はらだまほさん（おどり）
- ・井尻貴子（NPO 法人アートフル・アクション スタッフ）
- ・宮下美穂（NPO 法人アートフル・アクション 事務局長）

---

## 0、施設との振り返りについて共有

### ■施設からの声として

- ・内容はよかったが、体制、環境などが要因で参加が難しいという声が多かった。
- ・体を動かしながら何か共有できるのはよかった。
- ・交流、コミュニケーションしたいと言っても、ただ話しましょうというのは難しさもあるので、体を動かす、手を動かすなどをしながら話すというのはいいと思った。

### ■関連して

・中野詩さんの話を聞く機会がたまたまあった。社会的処方の対象者である高齢者向けのプログラムに医療者が参加することによって、医療者間のコミュニケーションが促進されたり、ケアの質がよくなったりするというような研究結果も出ているようだった。でも、日本ではそういうことがまだ広まっていない。（花崎）

中野詩さん [https://artscape.jp/dictionary/author/10141547\\_1827.html](https://artscape.jp/dictionary/author/10141547_1827.html)

社会的処方 <https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00133/>

・二葉むさしが丘学園の鈴木章浩さんが、「NPO 法人芸術家と子どもたち」のプログラムとして二葉むさしが丘学園で実施したワークショップレポートで「自分は子供たちに対してこうしたプログラムは有効だと思っているが、同僚や他の施設に受け入れられるのに、あと10年はかかるんじゃないか」といったことを書いていた。子供たちに対してもそのような状況で、ましてケアをしている職員の人たち向けのアートプロジェクト、というアイデアがそもそもまだ知られていない。実際に現場を運営することプラス、そういうことを発信していく、広報的なことをやっていく必要もあるものすごく思った。ただ、海外でそういう研究結果が出ていると言っても、「そうですね、じゃあやりましょうか」とはならないから、その辺の情報発信を丁寧にやる必要があると思う。（花崎）

## 1、今年度、やってみてどうだったか

### ■花崎さん

・2年目だったけどトライアル感があった。

・「物語を読む」こともしてみたかった。

→2023年2月が中止になってしまったが、この回は物語を読みみようという構想があった。別の場所で、『焼かれた魚』（小熊秀雄）という物語をモチーフにして、その物語を演劇にするというよりかは、その物語をおいて、いろんな話をしてみたり、作業をしてみたりするというのをやってみた。そういう可能性もあるなあと感じている。物語の選び方も重要。

物語を媒介にすると、直接的じゃなくて、その人が感じていること、考えていること、何かが起こった時にどういうふうに対応するかなどが見えやすい。お互いのことを知れる感じがちょっとある。そういうことを皆さんとやってみたかった。心残り。

→3回目のWSだからやろうということではなく、単発でもおもしろいと思う。

・普段と違う対話という意味では、ギャラリーの展示を見ての、対話型鑑賞なども面白そう。

・時間について。

→2時間が長いというのもわかる。一方、1時間では慌ただしい。緩やかな2部構成。終わった後、参加自由で、ちょっとお茶しましょうとかっていう形が可能なら、1部の時間は2時間なくてもいいように思う。

### ■はらださん

・今年度2回しか実施できなかったが、実施した回については楽しく、参加された職員の方々も楽しいということだった。ただ、単発感は否めなかった。

・「安心して楽しめる場」を保証することも大事なのではないかと思う。

月1回のみでの2時間よりも、たとえば毎週（今週はお茶、今週はレクチャーとか内容を変えて）やるのか。毎回参加はできなくても、何か情報だけは流れてきて、その毎回のテーマが地続きだったりするような構造が作れたら、単発でやりましたというよりも、もう少しつながっている感じのできるのではないか。

・参加者の一人が「カフェいいですね！カフェ！」と言っていたのが印象的だった。今年度は施設を会場に実施したが、こっちがやっているのに来てもらうというのもいいのかもしれないと思う。

### ■松村さん

・今年度は、会場（子供の家）の環境はよかった。一方、施設という環境から離れた方が、職員にとっては素の自分になれるということもあるかも知れない。

・ずっと、音楽の出どころが難しいなどは思っている。動きにくさもあったりする。

・ボディパーカッションは、皆さんノリ良くやっていて、もう少しじっくりやりたいなと思った。

・交流という点では、音楽をやると、意外な面が出やすい。「この人、おとなしいけど、めちゃくちゃ音でかいなあ」とか。逆もある。そういう意外な面も知れるツールとして、音楽は結構面白い。そういうのはもう少しやりたかった。

・時間は、2時間というのは確かに重いので、参加しやすい時間設定は必要だなと思うが、参加してしまえば、そんなに苦ではない長さなのかなと思う。

・今年度単発感が増したのは、参加者が不安定だったからというものもある。今回は、参加者が2名だから、こんな感じでやろうかというふうに、参加者数等に応じて各回の内容を検討した。来年度、年間スケジュールを立てるとなるとそれは気にせずやるのか、人数はある程度こんなものだよねというのがつかめれば、安定するのかなと思う。

## 2、来年度に向けて

### ■概要、体制

・年度はじめに1年間の開催予定日を決め、年間スケジュールを作成する。  
(2022年度は、2～3ヶ月分ごとにスケジュール調整をし、開催予定日を決めていた。)

・講師にとっても、年間の予定が見えていた方が助かる。ただ、施設職員のシフトのことを考慮すると、曜日でFIXしてしまうと、それが参加阻害要因になることもありえそう。その辺りも考慮し、開催日を決める必要あり。

(初年度から参加している、二葉むさしが丘学園の方の参加しやすい曜日などを確認してから決めた方が良いと思われる。)

・実施時間は2時間は長いかもしれない。1時間～1時間半のプログラムにする。または2時間であっても、前半のみ、後半のみの参加可能にするなどする。  
(施設職員の状況としては、1時間の休憩時間をとることすら難しいということ踏まえて。)

・参加者は、もう少し開いてもよいかもしれない。3施設に限定して声掛けをするだけだと、参加状況は来年度も変わらない可能性がある。

・「毎月この日に行くと何かがあるよ」的な、継続、安定的に場をひらくこと自体にも意味がありそう。いつでも立ち寄れる場所。

・1年目は二葉むさしヶ丘学園、2年目は(他施設とも交流したいという声を受け)二葉むさしヶ丘学園と子供の家の職員の方々に参加していただいた。3年目となる2023年度は、様々な社会の変化もふまえ、もう少し参加者を開いていくのはどうか。

### ■内容

・実践とリサーチ、両方に取り組んでいけるとよい。

→リサーチ：ケアする人のためのケア、としてのアート(ダンス、演劇、音楽 etc)の可能性。

・施設職員の皆さんとも一緒にプログラムを作っていくことができないか(事前MTGにも参加していただくなど)(負担にならないかたちをどう作ることができるかが課題)。

・手仕事の要素のあるプログラムがあってもよさそう。

参考：呉夏枝のワークショップ「記憶をたどる——編み物をほぐす／ほどく」

<https://toikake.tumblr.com/>

・さまざまなプログラム（ダンス、演劇、音楽 etc）を行う。各回プログラムが異なるようなものであってもいいが、その色々なプログラムが緩やかにつながり全体像を描くようなものとして1年間をデザインできないか。